●話すこと
英語15　音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話す

設問（１）

<問題文>
この問題は(１)と(２)の２問あります。この問題では、話す準備をする時間はありません。動画に出てくる吹き出しはあなたが伝えたいことを表しています。

あなたは、明日、留学生のサラと遊ぶ予定です。これから明日の天気予報を確認して、明日のことについてサラと電話で話すところです。

（１）吹き出しの中に示されているイラストを見て、サラに明日の天気を英語で伝えましょう。【解答時間　15 秒】

設問（２）a

<問題文>
この問題は(１)と(２)の２問あります。この問題では、話す準備をする時間はありません。動画に出てくる吹き出しはあなたが伝えたいことを表しています。

あなたは、明日、留学生のサラと遊ぶ予定です。これから明日の天気予報を確認して、明日のことについてサラと電話で話すところです。

（２）サラがこのあとあなたに質問します。吹き出しの中に示されているイラストを見て、質問に対して、英語で答えましょう。【解答時間　15 秒】

英語の音声スクリプト

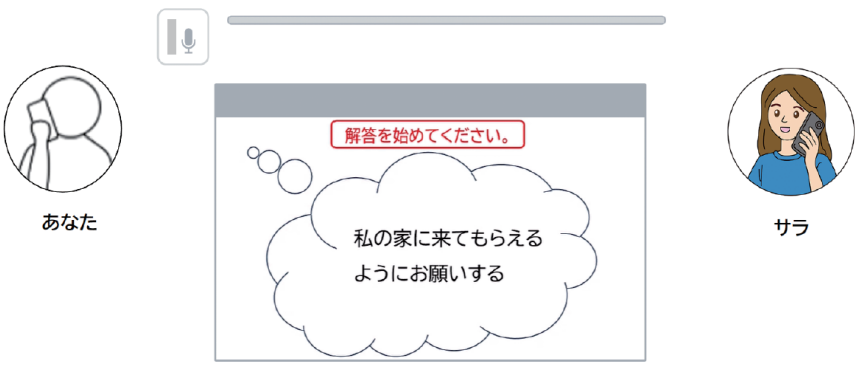
What will we do tomorrow?

設問（２）b

<問題文>
この問題は(１)と(２)の２問あります。この問題では、話す準備をする時間はありません。動画に出てくる吹き出しはあなたが伝えたいことを表しています。

あなたは、明日、留学生のサラと遊ぶ予定です。これから明日の天気予報を確認して、明日のことについてサラと電話で話すところです。

（２）吹き出しの中に示されている内容を、サラに英語でお願いしましょう。【解答時間　15 秒】



出題の趣旨

音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる。

「話すこと」の目標である、即興で伝え合ったり、まとまりのある内容を話したり、聞いたことや読んだことについて話したりするためには、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けておくことが重要である。そのためには、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法の知識を話すことにおける実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図るとともに、言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うことが求められる。

英語15では、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかを把握することをねらいとしている。

設問（１）は、未来表現（will）などの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかを把握するために、電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に明日の天気を伝える問題とした。

設問（２）ａは、「考えや意図を伝える」という言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかを把握するために、電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生からの質問を聞き、明日しようと思っていることを伝える問題とした。

設問（２）ｂは、「相手の行動を促す」という言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかを把握するために、電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に自分の家に来てもらうように依頼する問題とした。

設問（１）

趣旨

未来表現（will）などの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

話すこと［やり取り］

内容（1）英語の特徴やきまりに関する事項

ア　音声

ウ　語、連語及び慣用表現

エ　文、文構造及び文法事項

（3）言語活動及び言語の働きに関する事項

②　言語の働きに関する事項

イ　言語の働きの例

(ｳ) 事実・情報を伝える

■評価の観点

知識・技能

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

話すこと［やり取り］

(ｱ) 関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率(%)	正答
15	(1)	1	明日の天気について未来表現（will）を用いて解答しているもの	21.7	◎
		2	明日の天気について未来表現（be going to）を用いて解答しているもの	0.1	◎
		3	明日の天気について未来を表す語句を用いて解答しているもの	20.4	○
		4	明日の天気について will 以外の助動詞を用いて解答しているもの	0.0	○
		5	文法事項など※に誤りがあるが、明日の天気について解答しているもの	16.4	
		6	「明日」と「天気」のみを解答しているもの	5.2	
		7	与えられた情報について解答していないもの	24.8	
		99	上記以外の解答　（日本語など）	2.2	
		0	無解答	9.2	

※「文法事項など」とは、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを指す

（N= 46,096 人）

２．分析結果と課題

○　正答率は 42.3%である。電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に明日の天気を伝える本問では、未来表現（will）などの知識を活用して話すことに課題がある。他の解答類型と比較すると、誤答の中では解答類型５の反応率が 16.4%、解答類型７の反応率が 24.8%と高い。

○　令和５年度【中学校】話すこと英語 1 では、やり取りの場面において、即興で伝え合うことができるかどうかをみるために、（１）～（３）の問題を出題し、（１）は、正答率 19.0%、（２）は正答率 9.4%、（３）は正答率 13.4%、であった。今回の結果から、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを活用して話すことに引き続き課題があると考えられる。

○　解答類型１の例

・It will be rainy tomorrow.　・It will rain tomorrow.　・Tomorrow will be rainy.

解答類型１に該当する生徒は、明日の天気について未来表現（will）を用いて解答している。このことから、未来表現（will）などの知識を活用して話す技能を身に付けていると考えられる。

○　解答類型２の例

・It’s going to be rainy tomorrow.　・Tomorrow, it’s going to rain.

解答類型２に該当する生徒は、明日の天気について未来表現（be going to）を用いて解答している。このことから、未来表現（be going to）などの知識を活用して話す技能を身に付けていると考えられる。

○　解答類型３の例

・It is rainy tomorrow.	・Tomorrow is rainy.
・It's raining tomorrow.	・Tomorrow weather is rainy.

解答類型３に該当する生徒は、明日の天気について未来を表す語句（tomorrow など）を用いて解答している。

○　解答類型４の例

・It may be rainy tomorrow.	・Tomorrow may be rainy.

解答類型４に該当する生徒は、明日の天気について will 以外の助動詞を用いて解答している。

○　解答類型５の例

・It will rainy tomorrow.	・It is be rainy tomorrow.	・It is rain tomorrow.
・Rainy is tomorrow.	・It was rainy tomorrow.	

解答類型５に該当する生徒は、rain と tomorrow を用いているが、文法事項などに誤りがある。

○　解答類型６の例

・Rainy, tomorrow.	・Tomorrow rain.

解答類型６に該当する生徒は、rain と tomorrow を用いているが、語句のみで解答しており、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられる。

○　解答類型７の例

・It's rainy.	・Rainy.	・Will rain.
・Yesterday is rainy.	・I like rain.	・It's rainy is yesterday.

解答類型７に該当する生徒は、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられる。

設問（２）a

趣旨

「考えや意図を伝える」という言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

話すこと［やり取り］

内容（1）英語の特徴やきまりに関する事項

ア　音声

ウ　語、連語及び慣用表現

エ　文、文構造及び文法事項

（3）言語活動及び言語の働きに関する事項

②　言語の働きに関する事項

イ　言語の働きの例

(ｴ) 考えや意図を伝える

■評価の観点

知識・技能

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

話すこと［やり取り］

(ｱ) 関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動。

１．解答類型と反応率

問題番号			解答類型	反応率(%)	正答
15	(2)a	1	質問に対して、明日しようと思っていることについて、考えや意図を伝える表現を用いて解答しているもの	19.0	◎
		2	質問に対して、明日しようと思っていることについて、考えや意図を伝える表現（疑問文）を用いて解答しているもの	0.5	◎
		3	質問に対して、明日しようと思っていることについて話し手のみが行うことを解答しているもの	14.0	○
		4	文法事項など※に誤りがあるが、質問に対して、明日しようと思っていることについて解答しているもの	9.4	
		5	「ゲーム」と 「明日」のみを解答しているもの	0.3	
		6	相手からの質問に対して、与えられた情報について解答していないもの	42.0	
		99	上記以外の解答 （日本語など）	2.8	
		0	無解答	12.0	

※「文法事項など」とは、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを指す

（N= 25,779 人）

２．分析結果と課題

○ 正答率は 33.5%である。電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生からの質問を聞き、明日しようと思っていることを伝える本問では、「考えや意図を伝える」という言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題がある。他の解答類型と比較すると、誤答の中では解答類型６の反応率が 42.0%、無解答の反応率が 12.0%と高い。

○ 令和５年度【中学校】話すこと英語 1 では、やり取りの場面において、即興で伝え合うことができるかどうかをみるために、（１）～（３）の問題を出題し、（１）は、正答率 19.0%、（２）は正答率 9.4%、（３）は正答率 13.4%、であった。今回の結果から、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを活用して話すことに引き続き課題があると考えられる。

○ 解答類型１の例

- We will play video games tomorrow.
- Let’s play video games tomorrow.
- I want to play the game together tomorrow.
- Please come to my house and let’s play games together.

解答類型１に該当する生徒は、サラからの質問に対して、明日しようと思っていることを伝えることができている。このことから、「考えや意図を伝える」という言語の働きなどの知識を活用して、話す技能を身に付けていると考えられる。

○　解答類型２の例

・Why don’t we play video game?
・Do you want to play video games tomorrow?

解答類型２に該当する生徒は、サラからの質問に対して、明日しようと思っていることについて、考えや意図を伝える表現（疑問文）を用いて解答している。このことから、「考えや意図を伝える」という言語の働きなどの知識を活用して、話す技能を身に付けていると考えられる。

○　解答類型３の例

・I am going to play video games tomorrow.
・I will play video games tomorrow.
・I want to play the game tomorrow.
・I wish I play game.

解答類型３に該当する生徒は、サラからの質問に対して、明日しようと思っていることについて、話し手のみが行うことを話している。

○　解答類型４の例

・We will be play game.
・I’m play game tomorrow.

解答類型４に該当する生徒は、サラからの質問に対して、明日しようと思っていることについて話しているが、助動詞の欠落や、be 動詞と一般動詞の混在など、文法事項などに誤りがあり、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられる。

○　解答類型５の例

・Game, tomorrow.
・Tomorrow game.

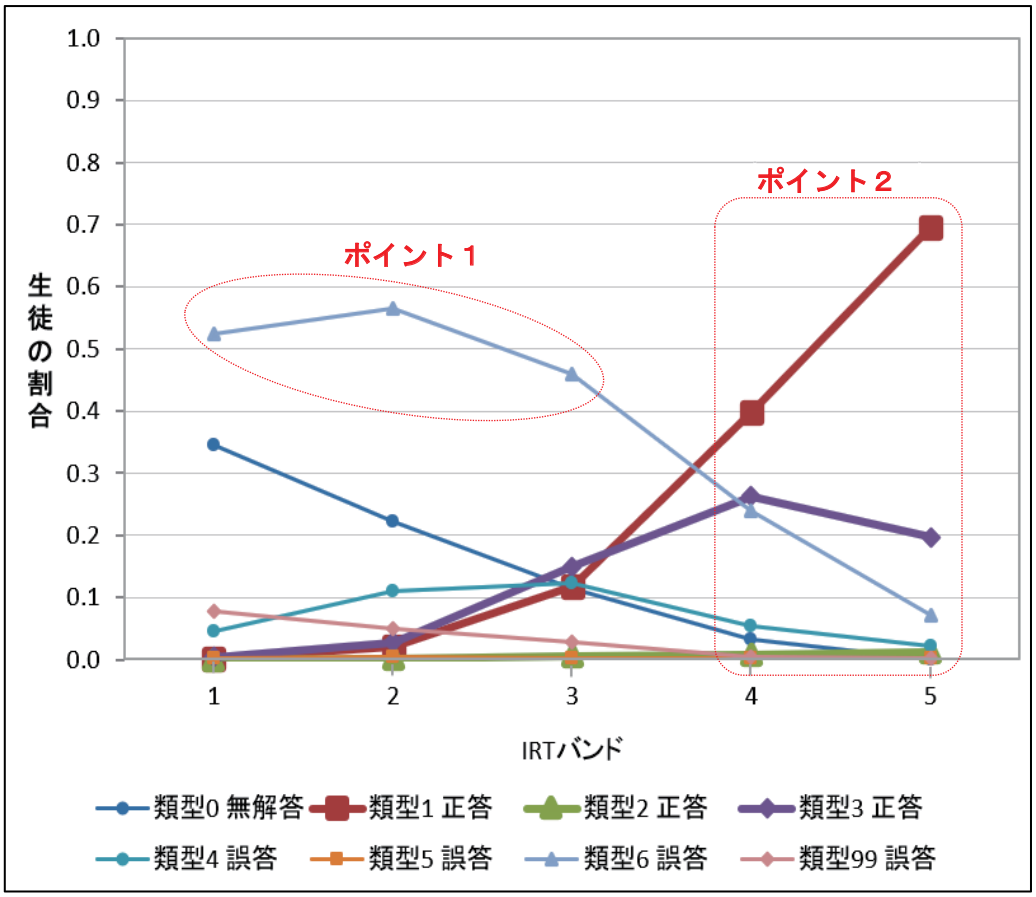
解答類型５に該当する生徒は、サラからの質問に対して、明日しようと思っていることについて game と tomorrow を用いているが、語句のみで解答しており、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられる。

○　解答類型６の例

・I play game.　・She plays the game.　・I will be tomorrow.
・Tomorrow is play game.　・I play games and Sara.　・I play video game with.

解答類型６に該当する生徒は、サラからの質問に対して、明日しようと思っていることを伝えることができていない。音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられる。サラの質問を聞き取ることができず、何を答えたらよいか分からなかったり、答える内容は分かったがどのような表現で話したらよいか分からなかったりした可能性が考えられる。

○IRT バンド別類型割合グラフ



○IRT バンド別類型割合グラフから分かること

・ポイント１について

IRT バンド１、２それぞれに属する生徒の５割以上、および IRT バンド３に属する生徒の４割以上が、誤答である解答類型６に分類されており、IRT バンド１～３に属する相当数の生徒が、電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生からの質問を聞き、明日しようと思っていることを伝える際に、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられる。サラの質問を聞き取ることができず、何を答えたらよいか分からなかったり、答える内容は分かったがどのような表現で話したらよいか分からなかったりした可能性が考えられる。指導に当たっては、生徒が話しやすいテーマで教師が ALT や生徒とやり取りを行い、質問に即興で応答したり、関連する質問をしたりして、やり取りの例を示すことが大切である。また、１回目のやり取りの後に、学級全体で相手がどのような質問していたのかを確認した上で、考えや意図を伝えるための表現を複数提示し、どちらがより適切かを指導することなどが考えられる。

【p.121「学習指導に当たって」（１）～（３）】

・ポイント２について

IRT バンド４に属する生徒の６割以上、および IRT バンド５に属する生徒の約９割が、正答である解答類型１～３に分類されており、おおむねの生徒が、電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生からの質問を聞き、明日しようと思っていることを伝えることができていると考えられる。

設問（２）ｂ

趣旨

「相手の行動を促す」という言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

話すこと［やり取り］

内容（1）英語の特徴やきまりに関する事項

ア　音声

ウ　語、連語及び慣用表現

エ　文、文構造及び文法事項

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

② 言語の働きに関する事項

イ　言語の働きの例

(ｵ) 相手の行動を促す

■評価の観点

知識・技能

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

話すこと［やり取り］

(ｱ) 関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動。

１．解答類型と反応率

問題番号			解答類型	反応率(%)	正答
15	(2)b	1	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現（疑問文）を用いて解答しているもの	10.6	◎
		2	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、命令文を用いて解答しているもの	21.5	◎
		3	文法事項など※に誤りがあるが、依頼する表現または命令文を用いて解答しているもの	1.8	
		4	依頼する表現以外の疑問文を用いて解答しているもの	2.5	
		5	与えられた情報について依頼する表現を用いて解答していないが、come と house を用いて解答しているもの	14.7	
		6	与えられた情報について解答していないもの	31.9	
		99	上記以外の解答　（日本語など）	3.5	
		0	無解答	13.4	

※「文法事項など」とは、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを指す

（N= 20,317 人）

２．分析結果と課題

○　正答率は 32.1%である。電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に自分の家に来てもらうように依頼する本問では、「相手の行動を促す」という言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題がある。他の解答類型と比較すると、誤答の中では解答類型５の反応率が 14.7%、解答類型６の反応率が 31.9%、無解答の反応率が 13.4%と高い。

○　令和５年度【中学校】話すこと英語1では、やり取りの場面において、即興で伝え合うことができるかどうかをみるために、（１）～（３）の問題を出題し、（１）は、正答率 19.0%、（２）は正答率 9.4%、（３）は正答率 13.4%、であった。今回の結果から、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを活用して話すことに引き続き課題があると考えられる。

○　解答類型１の例

・Can you come to my house?　・Could you come to my house?
・Will you come to my house?

解答類型１に該当する生徒は、「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現（疑問文）を用いて話すことができている。このことから「相手の行動を促す」という言語の働きなどの知識を活用し、話す技能を身に付けていると考えられる。

○　解答類型２の例

・Please come to my house.　・Come to my house, please.

解答類型２に該当する生徒は、「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、please とともに命令文を用いて話すことができている。このことから「相手の行動を促す」という言語の働きなどの知識を活用し、話す技能を身に付けていると考えられる。

○　解答類型３の例

・Can you come your house?　・Can you coming to my house?

解答類型３に該当する生徒は、文法事項などに誤りがあるが、依頼する表現または命令文を用いて解答している。所有格の誤りや動詞の活動の誤りなどがあり、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられる。

○　解答類型４の例

・Can I come to my house?　・Did you come to my house?

解答類型４に該当する生徒は、依頼する表現以外の疑問文を用いて解答している。you と I の主語の取り違え、所有格の誤りなどがあり、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられる。

○　解答類型５の例

・Come home.　・I will want to come to my house.　・I come home.

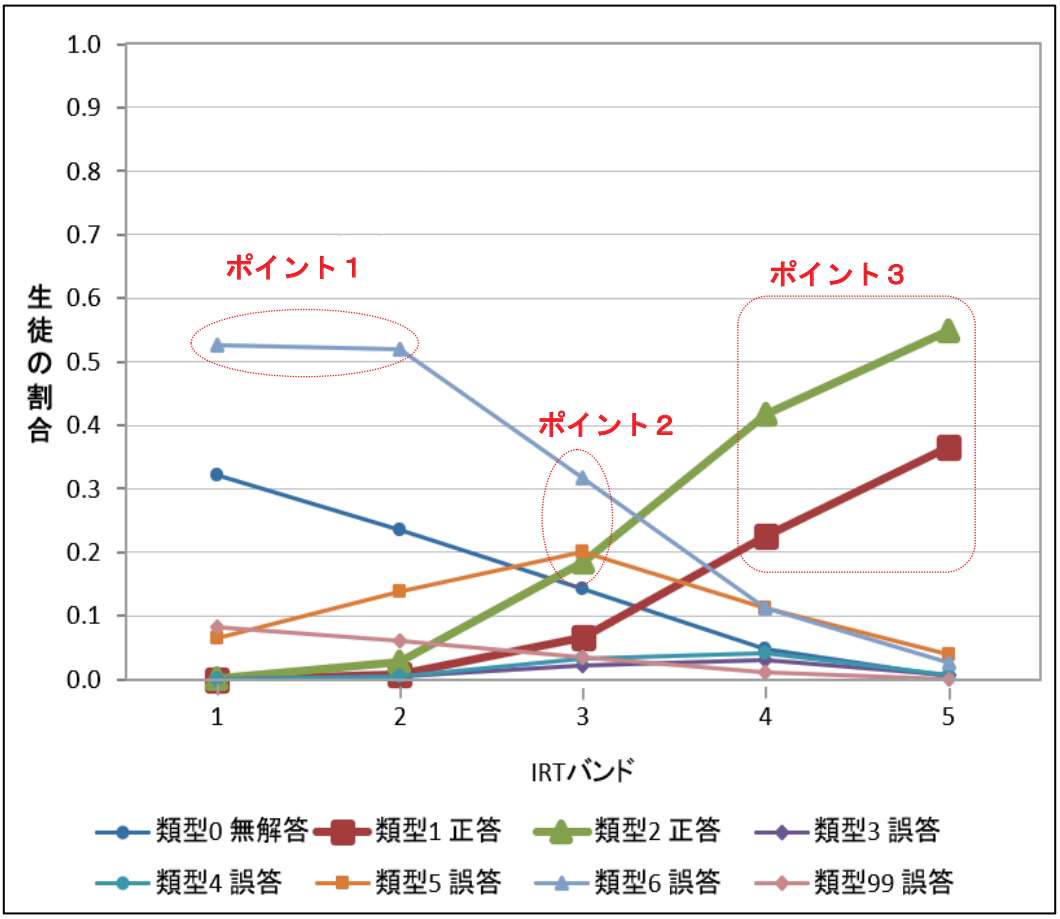
解答類型５に該当する生徒は、与えられた情報について依頼する表現を用いて解答していないが、come と house（home）を用いて解答しており、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられる。

○　解答類型６の例

・My house come.　・Can I my home?　・My house going.
・My home go to.　・My house.　・Please.

解答類型６に該当する生徒は、電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に自分の家に来てもらうように依頼することができていない。音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられる。

○IRT バンド別類型割合グラフ



○IRT バンド別類型割合グラフから分かること

・ポイント１について

IRT バンド１、２それぞれに属する生徒の５割以上が解答類型６に分類されており、電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に自分の家に来てもらうように依頼する際に、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられる。指導に当たっては、１回目のやり取りを行った後に、場面や状況を把握させた上で、相手に依頼をする際の表現を複数提示し、学級全体でどちらがより適切かを考えさせることなどが考えられる。 【p.121「学習指導に当たって」（２）】

・ポイント２について

IRT バンド３に属する生徒の約２割が解答類型５に分類されている。IRT バンド１、２に属する生徒と比較すると、“come” と “house” を用いて解答している生徒の割合が高くなり、解答類型６に分類されている割合が低くなっている。指導に当たっては、必要な表現を用いて正しい文構造で話すことができるように、教師が正しい文構造で発話して例として示したり、学級全体で表現の仕方を共有した上で再度やり取りを行わせたりすることが考えられる。 【p.121「学習指導に当たって」（１）（２）】

・ポイント３について

IRT バンド４に属する生徒の約６割、および IRT バンド５に属する生徒の約９割が、正答である解答類型１、２に分類されており、おおむねの生徒が、電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に自分の家に来てもらうように依頼することができていると考えられる。

３．学習指導に当たって

（１）教師が積極的に英語を使用して、ALTや生徒とやり取りを行う

生徒が、事実や自分の考え、気持ちなどを即興で伝え合うことができるようにするためには、教師自身が積極的に英語を使用し、質問に即興で適切に応答したり、関連する質問をしたりするなど、やり取りを行うことが大切である。例えば、教師とALTがやり取りを行う際に、①相手に聞き返したり確かめたりする、②相づちを打ったり、つなぎ言葉を用いたりする、③相手の答えを受けて、自分のことを伝える、④関連する質問を付け加える、などのやり取りの例を示すことが考えられる。生徒とやり取りする際には、生徒の発話を受けて、聞き返すなどして文での発話を促したり、より伝わる表現になるように支援したりすることが考えられる。

（２）やり取りを行った後に、学級全体で共有した内容を踏まえて再度やり取りを行う

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを設定し、ペアやグループで即興でやり取りをした後、どのような内容を話したらよいかという内容面の充実を図ることが大切である。例えば、情報を付け加えて話したり相手の発話に関連する質問をしたりして、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じてやり取りしている生徒をよい例として紹介し、やり取りをする際の視点とすることなどが考えられる。

また、どのような表現を用いたらよいかという言語面での充実を図ることも大切である。分からなかった表現を学級全体で確認したり、特定の表現を取り上げて言語の働きに着目して指導したりすることが考えられる。その他にも、生徒が録画したやり取りを見返して、自ら発話した表現を書き出して修正点を考えたり、発話の正確さの観点から、生徒の発話に対して教師が文での発話を促すフィードバックを与えたりするなどして、正確さに意識を向けることも考えられる。

このようにコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じたやり取りをするための視点や表現を共有した上で、相手を変えて再度やり取りを行うなど、やり取りを繰り返すことが重要である。

（３）生徒が話しやすいテーマで、事実や自分の考えなどを話したり、質問したりする活動を継続的に行う

音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話す技能を身に付けるために、例えば、授業の冒頭に生徒にとって興味・関心をもてるようなテーマや生徒が自分と関連付けて考えることができそうなテーマを取り上げることが考えられる。生徒が話しやすいテーマで事実や自分の考え、気持ちなどを即興で話したり、質問したりする活動を継続して行い、知識を活用して話す技能を身に付けるように指導することが大切である。生徒同士がやり取りをする際に、互いの考えを話すだけではなく、相手の話した内容に関連する質問をするように促すことで、「話すこと［発表］」ではなく、「話すこと［やり取り］」の力を育成することが重要である。

（４）言語活動の例

- 互いの新たな一面を知るために、好きなことや興味のあることについてやり取りする活動
- 友達に共感してもらえるように、自分の住むまちのおすすめスポットのよさについてやり取りする活動

授業アイディア例４
音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して即興で伝え合う

１．関連する調査問題と正答率

英語 15（１） 正答率 42.3%
英語 15（２）a 正答率 33.5%
英語 15（２）b 正答率 32.1%

調査問題（クリック、読み込み）

音声スクリプト（クリック、読み込み）

２．中学校学習指導要領における目標・内容

話すこと［やり取り］　ア　関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。

内容

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項
ア　音声
ウ　語、連語及び慣用表現
エ　文、文構造及び文法事項

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項
②　言語の働きに関する事項
イ　言語の働きの例
(ｳ) 事実・情報を伝える
(ｴ) 考えや意図を伝える
(ｵ) 相手の行動を促す

3．単元計画

（１）単元の目標

ALT と学級の友達が楽しめる交流会の内容を決めるために、自分の考えとその理由を伝えたり、相手に質問したりすることができる。

（２）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・未来表現の特徴やきまりを理解している。 ・考えや意図を伝える表現や相手の行動を促す表現の特徴やきまりを理解している。 ・未来表現などを用いて、交流会の内容を提案したり、提案に応じたりするなどの話す技能を身に付けている。	ALT と学級の友達が楽しめる交流会の内容を決めるために、自分の考えとその理由を伝えたり、相手に質問をしたりしている。	ALT と学級の友達が楽しめる交流会の内容を決めるために、自分の考えとその理由を伝えたり、相手に質問をしたりしようとしている。

※「記録に残す評価」は後日に行う。

（３）単元展開

時間	■ねらい 知 知識及び技能　聞 聞くこと　読 読むこと や 話すこと［やり取り］発 話すこと［発表］書 書くこと 促したい生徒の気付き、振り返り	※指導上の留意点
1	■単元の目標を理解する。 聞　ALT との交流会について教師の提案を聞き、単元の目標を理解する。 や　ALT との交流会でしたいことについて、友達とやり取りし、学級全体で考えを共有する。 ALT が楽しめる内容を提案したいな。	※交流会の目的など、教師の提案の内容を確認する。 ※“I want to …”などの考えを述べる表現を板書する。

<table>
<tr><td rowspan="2">2</td><td colspan="2">■教科書の登場人物が週末の予定を決めている対話文を聞き、友達と週末の予定について伝え合う。</td></tr>
<tr><td>知　未来表現の特徴ときまりを理解し、未来表現を用いて、週末の予定について友達とやり取りする。
聞　未来表現を含む対話文を聞き、週末の予定を決めるために（１）登場人物が行く場所と（２）そこで行うことについて話していることを聞き取る。
や　友達と週末に一緒にしたいことについてやり取りし、学級全体で共有する。その際、「互いに楽しめること」という視点から内容と表現を振り返る。
相手が楽しめることを知るためには、相手が好きなことなどの情報を得て、それに基づいて、週末の予定を決めることが大切だ。 </td><td>※第３時以降も未来表現の指導を継続して行う。
※登場人物が週末にどこへ行って何をする予定なのかを確認する。
※相手が興味・関心があることを踏まえて週末の予定を決める必要があることを共有する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3</td><td colspan="2">■教科書の登場人物が週末の予定を決めている対話文（第２時の続き）を聞き、友達と週末に一緒にしたいことを提案したり、提案に応じたりする。</td></tr>
<tr><td>聞　未来表現を含む対話文を聞き、（１）相手への提案する表現と（２）提案に応じる際の表現を聞き取る。
知　“How about …?” “Why don’t you …?” など相手への提案をする表現や、“Can you …?” など相手にお願いをする表現を理解する。“I agree with you.” など相手に賛同したり、“It’s nice, but …” や “I have other plans.” など相手の提案を断ったりする表現を理解する。
相手に提案する際には、“Let’s …” 以外にも“How about …?” などの表現の仕方があるんだな。
や　週末の予定を決めるために、提案をしたり、提案に応じたりするやり取りの中で、自分の考えを詳しく話したり、相手に質問したりすることのよさを学級全体で共有する。
提案に賛同してもらうために、相手の好きなことを基に提案することができた。 </td><td>※ALT にどのような表現が適切かを尋ね、提案をする表現や、相手の提案に賛同する表現、相手の提案を断る表現を板書する。
※相手の提案を受け入れつつ、自分の考えを伝えることを共有する。
※よりよい週末の予定となるように提案したり、提案に応じたりする際には、その理由も付け加えることのよさや相手に５Ｗ１Ｈ を用いた質問をすることのよさを共有する。</td></tr>
<tr><td>4
本時</td><td colspan="2">■ALT と学級の友達が楽しめる交流会の内容を決めるために、考えと理由を伝えたり、それに関する質問をしたりする。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">5</td><td colspan="2">■ALT との交流会でしたいことをまとまりのある英語で話して表現する。</td></tr>
<tr><td>や　ALT だけではなく、学級の友達も一緒に楽しむために、交流会でしたいことをペアで伝え合う。
や　ALT との交流会で行いたいことについて、ペアで話し合ったことを基に、ALT と学級全体に提案する。
や　グループごとに考えとその理由を伝え、グループの代表者がやり取りし、学級として１つの考えにまとめる。
ALT と学級の友達が楽しめる交流会の内容を決めるという目的を意識することで、話す内容を工夫したり、友達に質問したりすることができた。 </td><td>※ALT だけではなく、学級の友達も楽しめるかどうかに着目してやり取りさせる。
※共通する提案とその理由をまとめて板書する。
※単元の目標を振り返り、できるようになったこととその理由、もっと伸ばしたいことなどを記述させる。</td></tr>
<tr><td>後日</td><td colspan="2">パフォーマンステスト（令和８年度　全国学力・学習状況調査　中学校英語15など）</td></tr>
</table>

本単元のような学習活動を、「話すこと［発表］」に重点を置くことで英語16を、「書くこと」に重点を置くことで英語13をパフォーマンステストとして実施することも考えられる。

４．第４時の展開案

１．コミュニーションを行う目的や場面、状況などを把握する

ポイント　意欲を高めたり、活動の見通しをもたせたりするために、「ALT と学級の友達が楽しめる交流会の内容を決めるために」というコミュニケーションを行う目的を明確にします。

教師

We are going to hold a party next week. Through the lessons, we are going to plan some activities with the ALT. I hope all of us will enjoy the party. What information do you know about him?

生徒

Mr. Green is from Australia. He doesn't speak Japanese very well. And…

We don't know much about him. Then how about asking him some questions to make a good plan?

Sure. Mr. Green, do you like sports?

Mr. Green
(ALT)

Yes, I do. My favorite sport is soccer. I usually watch soccer games on TV, but I don't play it.

What's your favorite food?

I like sushi. I ate it at a restaurant in Australia. I want to make sushi, but I don't know how to make it.

Mr. Green
-from Australia
-×speak Japanese

Favorite things
-watch soccer
-sushi (×how to make)

聞き出した Mr. Green の情報

２．ペアで互いの考えを伝え合う

ポイント　学級全体に紹介するために、言語面と内容面から生徒同士のやり取りを観察し、どのような指導が必要かを見取ります。

録画　**生徒同士のやり取り例①**

REC

生徒 A

I want to play soccer with Mr. Green.

生徒 B

Why?

I want to play some sports. I like soccer. Soccer is interesting.

It's a good idea, but I want to cook some food.

I like eating, but I am not good at cooking.

I like cooking. It is very fun.

What do you cook?

I cook some miso soup.

提案の根拠として Mr. Green の情報に言及してやり取りすると「皆が楽しめる」につながりそう。

録画　**生徒同士のやり取り例②**

REC

What are we going to do?

How about cooking? We will have English class in the 4th period next week.

生徒 C

Sounds nice. What are we going to make?

生徒 D

I want to make Japanese food.

I agree. He likes sushi but Nigirizushi is difficult to make.

How about Makizushi? We can enjoy making it together.

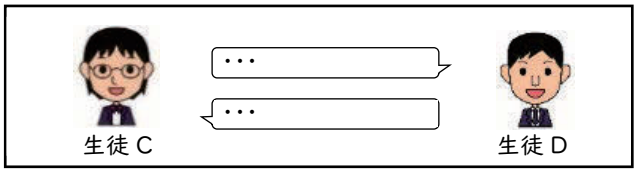
It's a good idea, but I don't know how to make it. Will you show it to me?

Mr. Green の情報に言及して、How about …?や We can …を用いており、よいモデルになりそうだ。

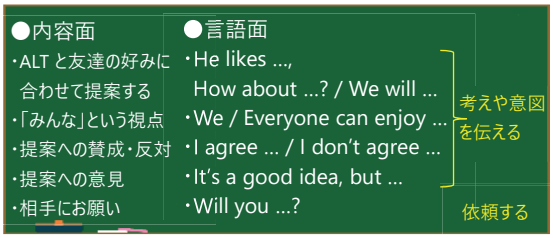
3．内容面と言語面から学級全体で共有を行う

ポイント

「ALT と学級の友達が楽しめる交流会の内容を決めるため」というコミュニケーションを行う目的に応じて、内容面と言語面からよい例となるペアのやり取りのよい点を共有します。そして、整理したやり取りのポイントを基に、自分たちのやり取りを振り返らせます。

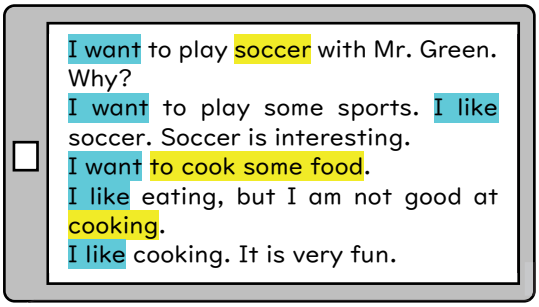


※生徒 C と生徒 D のやり取りの録画を視聴し、学級全体で言語面と内容面のよさを共有します。



整理したやり取りのポイント

There are some points of their talk. What are the good points of your talk? And how do you improve your talk next time?　黒板のポイントを参考に振り返ってみましょう。



文字起こしされた生徒 A と生徒 B のやり取りに線を引いて振り返っている画面（例）

生徒 A

サッカーや料理など ALT の情報に関連させて話せたと思う。（黄色）

せっかく料理の話をしているから、D さんのように Mr. Green がお寿司が好きであることと関連させられたら、もっと良かったと思う。

生徒 B

こうして見ると I want や I like が多い。自分の主張以外に、C さんのように How about ...?で提案する表現を使いたいな。（青色）

He や We など相手の立場に立って考えているのもよいですね。

学習者用端末で録音し、文字起こしをしたやり取りを「整理したやり取りのポイント」を基に振り返ることで、目的意識をもってやり取りを改善できるようにします。内容面と言語面から振り返り、次のやり取りでどのように変えてみるか、具体的に考えることができるようにします。

4．相手を変え、ペアで互いの考えを伝え合う

ポイント

「ALT と学級の友達が楽しめる交流会の内容を決めるため」というコミュニケーションを行う目的に応じて、やり取りを行っているかを見取るために、再度ペアでやり取りをさせます。

生徒同士のやり取り例

生徒 A

I want to play soccer with Mr. Green because he likes soccer.

It's a good idea. He likes soccer, but he doesn't play it.

生徒 E

You're right.

How about cooking some Japanese food? When I was in an elementary school, I made miso-soup for ALT. He felt happy at that time.

That's a good idea because he likes sushi, but I am not good at cooking. Can you teach me?

生徒の学習状況に応じて、2回目のやり取りを終えた後に、次のような活動も考えられます。

○2回目のやり取りで変容が見られた生徒の姿から学級全体で共有したことを踏まえて3回目のやり取りを行う。

○必要に応じて、言語材料について、理解したり、練習したりする活動を行う。

○他の場面や状況において言語の働きを意識して表現を使い分ける活動を行う。

○「ALT と学級の友達が楽しめる交流会の内容を決めるため」という単元の目標を振り返り、できるようになったこととその理由、もっと伸ばしたいことなどを記述する。

コラム④

【話すことの評価について】

多くの中学校では何らかの「話すこと」のテストが行われていますが、「話すこと」の評価は重要だとわかっていても、どのように行うべきか迷う場合も多いようです。本コラムでは、テストの作成、実施、採点の観点から、記録に残す評価をどのような形で行うことが望ましいかを考えてみます。指導・学習につなげるために結果を活用する点は、振り返りについて述べたコラム③を参照してください。

まず、「話すこと」のテストの作成では、どのような課題で評価を行うかを授業で指導した内容に基づいて、話す目的や場面、状況などを設定し、「説明する」、「約束する」、「招待する」など、テストで引き出したい言語の働きを明確にすることが求められます。令和８年度調査の英語15では、「あなたは、明日、留学生のサラと遊ぶ予定です。これから明日の天気予報を確認して、明日のことについてサラと話すところです。」というコミュニケーションを行う目的や場面、状況などを設定し、天気や予定を「説明する」、家に来てもらうように「依頼する」という言語の働きに応じた言語使用ができるかどうかが測られています。また「話すこと」の［発表］や［やり取り］、「知識・技能」と「思考・判断・表現」、事前準備ありの形となしの形（即興型）を意識し、学習段階を考慮しながら、可能な範囲でバランスよく入れるようにします。特に、中学校学習指導要領に記載のある「相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動」の成果をテストする形が望ましいでしょう。小学校から継続し、中学校で普段の授業でも同様の活動を行って指導していれば、スピーキングテストにおいて同様の活動が求められても緊張せずに取り組めると考えられます。

さらに、テスト作成段階で、採点基準の作成も行います。全国学力・学習状況調査では類型を用いた分類を行っており、同様の形を用いることもできます。しかし、普段の授業のパフォーマンステストでは、採点基準を使い、発話の量や質を段階的に確認する方法が一般的です。採点基準の記述内容は、設定したテストの目的や場面、状況などや、言語の働きによって若干変わってきます。語句のみでも意図が伝わればよい場合も、文で説明することが求められる場合もあり、それに添って採点基準を修正します。採点基準の例は、国立教育政策研究所が発行した『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』の小学校外国語編・中学校外国語編・高等学校外国語編（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html）や、文部科学省が発行した『高等学校外国語科におけるパフォーマンステスト参考資料』（https://www.mext.go.jp/content/20220715-mxt_kyoiku01-000021347_1.pdf）で参照することができます。なお「知識・技能」の評価規準には、指導内容に基づき文法や語彙だけでなく発音も入れることができます。

次に「話すこと」のテストの実施・採点について、全国学力・学習状況調査では CBT 形式で録音を聞いて後で採点する形で行われており、学校で行う「話すこと」のテストでも同様の方法をとることができます。しかし、それだけではなく、テスト実施では ALT や JTE との会話、生徒同士の会話、AI との会話、録画・録音の提出などの多様な形があり、採点ではその場で採点するか、録画・録音して後で採点するという形があります。様々な形は、例えば上掲の『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校外国語】』には、生徒２人でやり取りをする場面を評価する例が載っていますし、『高等学校外国語科におけるパフォーマンステスト参考資料』には、教師と生徒の会話や、グループ内での個人発表をその場で採点したり、グループ内での個人発表を録画して後で採点したりするテスト例も載っています。

テストの作成、実施、採点において、AI を活用する際には、文部科学省「初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン」に従って、AI は補助的に用い、AI が出した作成物、実施方法、採点結果などについては、必ず教師が確認する必要があります。